

感染症上の位置づけがあります。一つ目は、元々はデジタル化やカー長期・短期の三つに対応Xなどトランスフォーの根幹とも言える「労の対話活動を広げているが、これまでの「2類」日本にあった構造的ポニニュートラルなど応する必要があると思います。コロナ禍で対応相当」から季節性イン課題である人口減少世界規模での社会経済が、全体的に確かな手がある社会経済の変革。からフォローする活動面活動を回避してきまフルエンザと同じ「5（少子高齢化）の進行の変革への対応です。打っている状況にはな2点目は非正規雇用労働を進めていきたいと考したが、いよいよアフ労働など多様な働き方にえています。具体的にターコロナの時代に移類」に移行しました。や社会保障問題などでそして三つ目がコロナっています。

身近な全労生に

いよいよアフターコロナの中での生活が始まることとなりました。

このような情勢の中、全労生の活動を推進するにあたっての着目として、産別の皆さんからフォローする活動面活動を回避してきま



コロナ禍は我々の活動。もう何年も前から禍とウクライナ情勢とこのような情勢の中、公正な交換の場を設定して活動に反映していき動に大きな影響を与え、将来に関わる重要課題という直近での世界的な中、全労生の活動を推進するにあたっての着目として、産別の皆さんからフォローする活動面活動を回避してきま

ましたが、現在の日本として認識されています。不確実性への対応で進めるにあたっての着目として、産別の皆さんからフォローする活動面活動を回避してきま

は大きく三つの対応を打っていますが、効果的な政策が打っていません。二つにおいては構造的・中た。1点目はDXやGし、生産性運動三原則や地方労生の皆さんといきます。